今日の空手 ―空手史逍遙―

第 6 回

2023 年 8 月 15 日　→　1878 年 8 月 15 日

Back to 145years ago

「今日の空手」第 6 回は、今日（2023 年 8 月 15 日）から 145 年前にあたる、1878 年 8 月 15 日へとご案内いたします。

仲村渠貞一、誕生す！

この連載の読者にあっても、仲村渠貞一の名を知る方は多くはないでしょう。いわゆる流派としての沖縄拳法の創始者、中村茂の叔父にあたる人物です。改姓後の中村貞一、または別名の仲村幸次の名に聞き覚えがある方はいるのかも知れません。貞一は父・貞吉の次男として 145 年前の今日、すなわち 1878 年 8 月 15 日に名護で生まれました。

琉球国時代の最末期とも言える時期に生まれた貞一ですが、早くから武術に親しんでいたそうです。少年期に旧士族の〝又吉のタンメー〟に師事して「唐手」を修得し、18 歳頃になると、その腕前は人のよく知るところになっていたと言います。いっぽう兄の幸吉、つまり中村茂の父親は学業面に優れ、帝国大学農科大学（現在の東京大学農学部の前身）を卒える（1899 年 7 月卒業）ほどの優秀さを世に示しました。

ところが、この将来を嘱望されていた兄が、1900 年に一子（茂）を遺して急死してしまいます。そしてこの頼るべき父をわずか数え 7 歳†で失った甥の茂へ、「唐手」を教えたのが貞一でした。貞一はこののち 1904 年にメキシコへ移民するので、期間的には最長でも 4 年ほど「唐手」を教えていたということになります。茂にとって貞一から幼き日に受けたその教えは、そのごの空手人生の基盤を形成したのではないでしょうか。

さて、メキシコ渡航後の貞一の活動はと言うと、残念ながら今のところ良くわかっていません。ただ遅くとも 1920 年までにはアメリカへと転住し、カリフォルニア州インペリアル郡のウエストモーランドで農業に勤しんでいます。

その頃のカリフォルニア州には、あの屋部憲通が滞在していますが、ここに貞一の親族の伝える逸話があります。この両者が沖縄県出身者の集う宴席で一緒になったさい、席上で貞一が「唐手」の演武し、その演武を屋部憲通が激賞したと言うものです‡。熟達した技を修めていたことが推測される逸話ですね。

そんな貞一でしたが 1922 年に急逝し、同地で葬られました。戦後になって遺骨は郷里に帰り、若き日に別れた甥らと同じ墓所に眠ることになりました。

―鶏肋―

†中村茂の誕生年を 1891 年とする記述は多いが、正しくは 1894 年。したがって父・幸吉が亡くなった 1900 年は、数えで 7 歳となる。

‡この宴席がいつの事なのかは現在不明。屋部の渡米と貞一の死去の間、つまり 1919 年 4 月～1922 年 4 月の間であったと考えられる。

草莽居士

（2023 年 8 月 15 日掲載）